

MGC

2023年度 第2四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2023年11月8日

証券コード
4182

 三菱ガス化学株式会社



1 | 2023年度 第2四半期 決算概要

2 | 2023年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス～次期中計に向けて～

はじめに「2023年度第2四半期決算概要」、次に「2023年度通期業績予想」、続いて「セグメント別業績概要」、最後にトピックスとして「次期中計に向けて」という順でご説明いたします。

1 | 2023年度 第2四半期 決算概要

2 | 2023年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス～次期中計に向けて～

まず、2023年度 第2四半期業績についてご説明します。

2023年度 第2四半期 業績



営業利益: ポリアセタール(POM)の市況下落や芳香族化学品をはじめとした全般的な販売数量減により減益

経常利益: メタノール市況下落等による持分法利益の減少等により減益

単位: 億円	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増 減		2023年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	3,949	3,996	+47	+1.2	3,800
営業利益	335	221	▲114	▲34.1	140
持分法利益	106	▲10	▲116	-	10
経常利益	499	249	▲249	▲50.0	160
親会社株主に帰属する四半期純利益	342	312	▲30	▲8.9	250
*2023年8月7日公表					
一株当たり四半期純利益(円/株)	166.33	152.67			122.19
為替レート(JPY/USD)	134	141			

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

4ページ、2023年度第2四半期の業績をご覧ください。

売上高3,996億円、営業利益221億円、経常利益249億円となりました。

主な売上高・利益増減要因(前年同期比)

売上高: 三菱エンジニアリングプラスチックス社(MEP)連結化や円安などにより増収

営業利益: ポリアセタール(POM)市況下落、芳香族化学品・有機化学品・電子材料等、全般的な販売数量減などにより減益

経常利益: メタノール市況下落による海外メタノール生産会社の持分法利益減少、及び繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益の剥落※等により減益
(※ベネズエラのメタノール生産会社にて計上、影響額▲50億円)

四半期純利益: MEP連結化に伴う段階取得差益が増益要因も、営業・経常利益の減少により減益

配当: 中間40円(前回予想と同額)

5ページに、2023年度第2四半期業績のポイントを示しております。

売上高は、三菱エンジニアリングプラスチックス、以降「MEP」と表現させていただきます、その連結化や円安などにより、増収となりました。

営業利益は、ポリアセタールの市況が下落したことや、芳香族化学品、有機化学品、電子材料など、販売数量が全般的に減少したことなどにより、減益となりました。

経常利益は、営業利益の減益に加え、メタノール市況の下落によりメタノール生産会社の持分法利益が減少したことや、前年同期にベネズエラの生産会社で計上した「繰延税金負債の取り崩し」による一過性の利益が剥落したことなどから、減益となりました。

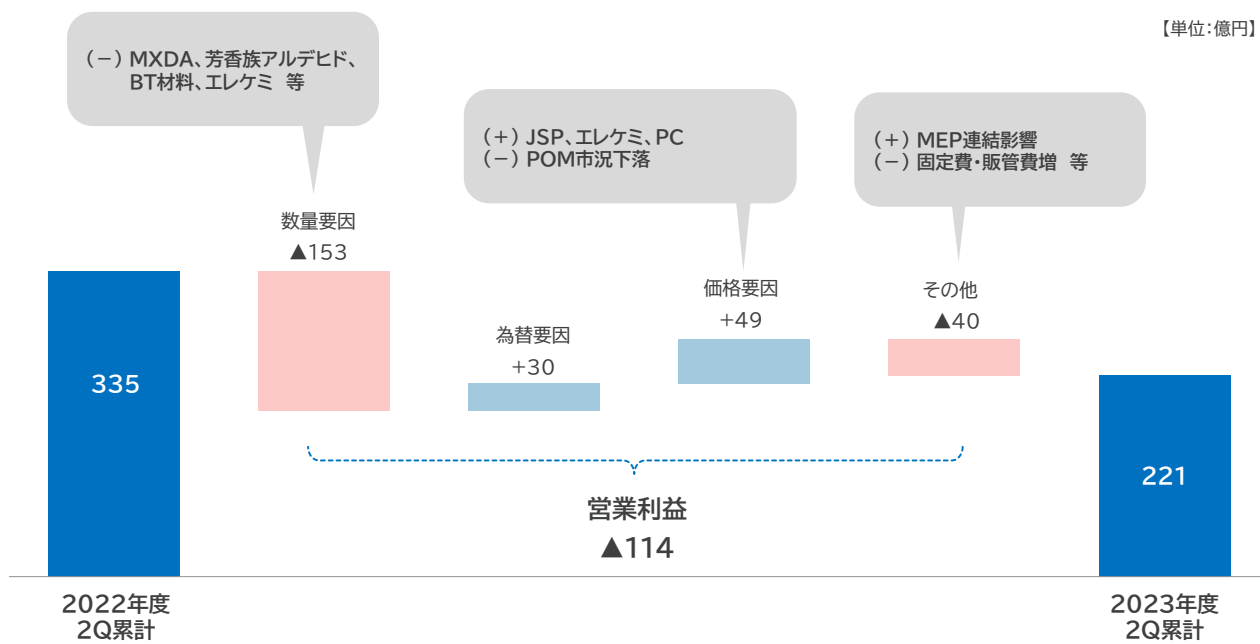
四半期純利益は、MEP連結化に伴う段階取得差益の計上などが増益要因となりましたが、経常利益が減少したことから、減益となりました。

なお、中間配当については、前回予想と同額の40円といたします。

2023年度 第2四半期 営業利益 増減要因(前年同期比)



【単位:億円】



6ページに、2023年度第2四半期の営業利益の増減要因を、対前年同期比で示しております。後ほど、ご参照願います。

2023年度 第2四半期 営業外損益・特別損益



単位:億円	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増 減
営業外損益	164	28	▲135
持分法による投資損益	106	▲10	▲116
金融収支	15	21	+6
為替差損益	49	25	▲24
その他	▲6	▲7	▲1
特別利益	5	183	+178
段階取得に係る差益	-	150	+150
投資有価証券売却益	3	28	+24
その他	1	4	+3
特別損失	▲8	▲6	+2
固定資産処分損	▲1	▲3	▲1
固定資産圧縮損	-	▲2	▲2
貸倒引当金繰入額	▲1	▲1	+0
土地整備費用引当金繰入額	▲2	-	+2
減損損失	▲1	-	+1
その他	▲1	-	+1
特別損益合計	▲3	177	+181

- 持分法損益
基礎化学品 ▲86
機能化学品 ▲30 等

(注)本表の増減は対損益増減を示しております。

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 7

続いて、7ページに営業外損益・特別損益、8ページに貸借対照表、9ページにキャッシュフロー計算書を記載しておりますが、時間の関係上、説明は省略させていただきます。

2023年度 第2四半期 貸借対照表



単位:億円	2023年3月末	2023年9月末	増 減
流動資産	4,832	5,650	+817
現預金	1,083	1,193	+110
売掛債権	1,766	1,985	+219
棚卸資産	1,781	2,209	+427
その他	201	261	+60
固定資産	5,460	5,979	+519
有形固定資産	3,137	3,514	+377
無形固定資産	119	288	+168
投資その他の資産	2,203	2,176	▲26
資産合計	10,293	11,630	+1,336

単位:億円	2023年3月末	2023年9月末	増 減
負債	3,580	4,355	+775
買掛債務	883	1,177	+293
有利子負債	1,669	1,999	+330
その他	1,027	1,178	+150
純資産	6,712	7,274	+561
株主資本	5,738	5,981	+243
その他包括利益累計額	337	530	+192
非支配株主持分	636	761	+125
負債・純資産合計	10,293	11,630	+1,336
自己資本比率	59.0%	56.0%	

2023年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書



単位:億円	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増 減
営業キャッシュフロー	133	369	+235
投資キャッシュフロー	▲308	▲193	+115
フリーキャッシュフロー(差引)	▲174	176	+350
財務キャッシュフロー	49	▲167	▲217
現金及び現金同等物に係る換算差額等	99	63	▲36
現金及び現金同等物の増減額(合計)	▲25	71	+97
現金及び現金同等物の期首残高	922	1,011	+89
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	20	-	▲20
現金及び現金同等物の四半期末残高	917	1,083	+166

1 | 2023年度 第2四半期 決算概要

2 | 2023年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス～次期中計に向けて～

続きまして、2023年度 通期業績予想についてご説明いたします。

2023年度通期 業績予想



－ 売上高及び各段階利益は前回予想を据え置き

単位:億円	2023年度 前回予想*	2023年度 今回予想	増 減		2022年度 実績
			金額	%	
売上高	8,400	8,400	-	-	7,812
営業利益	460	460	-	-	490
経常利益	490	490	-	-	697
親会社株主に帰属する当期純利益	470	470	-	-	490
* 2023年8月7日公表					
一株当たり当期純利益(円/株)	229.71	232.56			239.08
R O E (%)	7.6	7.7			8.3
R O I C※ (%)	5.4	5.4			8.8
為替レート(JPY/USD)	136	141			135

※ROIC=経常利益/投下資本

11ページは2023年度通期 業績予想の概要です。

前回予想を据え置き、売上高8,400億円、営業利益460億円、経常利益490億円としております。

- 営業利益: 前回予想を据え置き主な個別の増減要因^{※1}

- (+) 為替要因(円安^{※2})
- (+) 販売費及び一般管理費等の減少
- (-) POM市況下落、エレケミ等の需要回復遅れ

※1 JSP社株式公開買付けへの応募および資本業務提携の解消に伴う通期業績への影響は現在精査中のため含まず
(2023/10/31適時開示<https://www.mgc.co.jp/corporate/news/files/231031.pdf>)

※2 通期予想(JPY/USD:前回予想136 → 今回予想141)

- 経常利益: 前回予想を据え置き

- 為替前提(下期): 1ドル140円(前回予想より5円の円安)、1ユーロ150円(前回予想より5円の円安)
(為替感応度(USD、概算):1円の円安(円高)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の増益(減益))
- 原油価格前提(下期): 80ドル/bbl. (前回予想と同じ)
(原油感応度(USD、概算):1ドル/bbl.の下落(上昇)で、2億円/年の増益(減益)、メタノールへの影響は含まず)

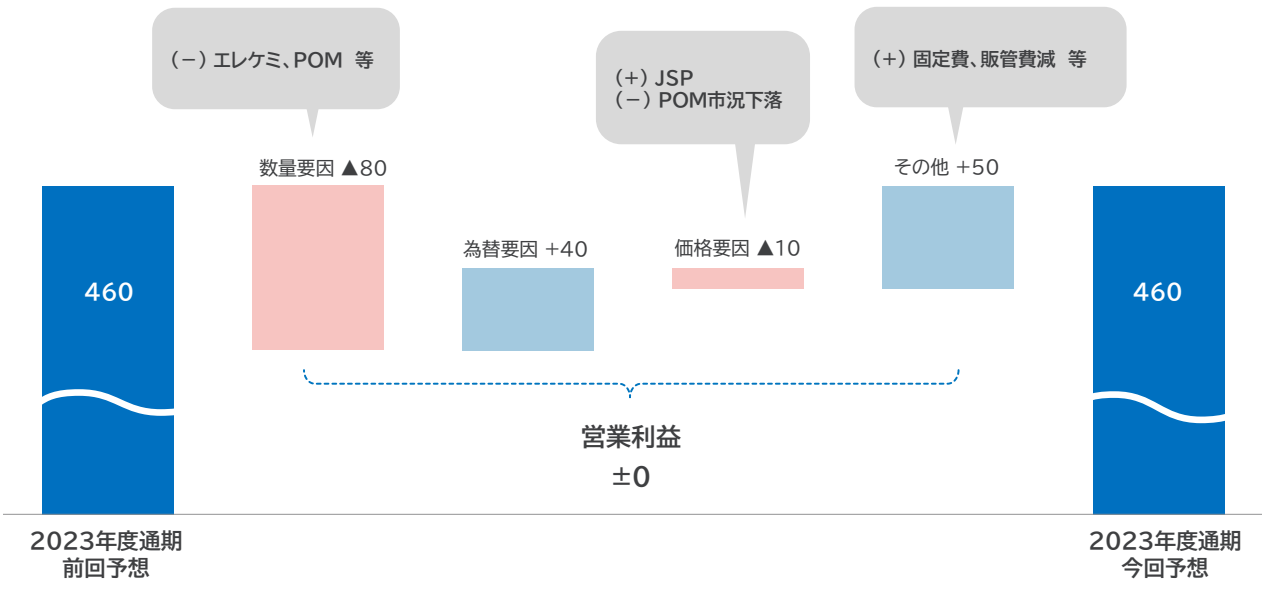
12ページは、業績予想のポイントを示しております。

前回予想比の営業利益増減要因としては、円安、販売費・一般管理費の減少などが増益要因となっておりますが、ポリアセタール市況やエレケミの需要回復のタイミングなどが前回予想時よりも遅れると想定され、これら減益要因も織り込んだ結果、売上高及び各段階利益は前回予想を据え置きといたしました。

2023年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)



【単位:億円】



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 13

13ページは、対前回予想比の、営業利益増減要因を、滝グラフで示しております。後ほど、ご参照願います。

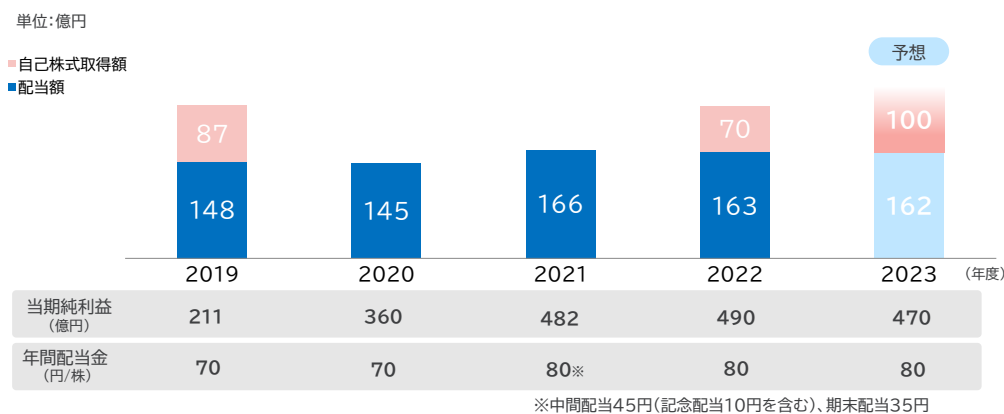
株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け。配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定
- 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る
- 総還元性向40%を中期的な株主還元の目安とする



- 2023年度の配当は80円を予想(普通配当ベースで前年と同額を予想)
- 2023年11月8日:自己株式取得(最大100億円 500万株※)、消却(500万株)を決定

※発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.44%



14ページは株主還元について示しております。

こちらに記載の方針に基づき株主還元を実施しており、「総還元性向」については40%を中期的な目安としております。

こうした方針により、2023年度の年間配当は80円を予想しているほか、11月8日に、最大100億円、500万株の自己株式の取得および消却も決定いたしました。

1 | 2023年度 第2四半期 決算概要

2 | 2023年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス～次期中計に向けて～

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 売上高・営業利益・経常利益

単位:億円	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
売上高	3,949	3,996	+47
基礎化学品	2,363	2,094	▲269
機能化学品	1,618	1,941	+323
全社/調整	▲33	▲39	▲6
営業利益	335	221	▲114
基礎化学品	144	94	▲49
機能化学品	203	142	▲61
全社/調整	▲13	▲16	▲2
経常利益	499	249	▲249
基礎化学品	208	74	▲134
機能化学品	253	178	▲74
全社/調整	37	▲4	▲41

【参考】主要製品群別(※)



単位:億円	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
売上高	3,949	3,996	+47
天然ガス系化学品	1,194	975	▲218
芳香族化学品	1,190	1,133	▲56
機能化学品	1,261	1,648	+387
特殊機能材	358	293	▲64
全社/調整	▲54	▲55	▲0
営業利益	335	221	▲114
天然ガス系化学品	65	41	▲24
芳香族化学品	79	53	▲25
機能化学品	129	88	▲40
特殊機能材	74	53	▲21
全社/調整	▲13	▲16	▲2
経常利益	499	249	▲249
天然ガス系化学品	121	18	▲103
芳香族化学品	87	56	▲30
機能化学品	164	116	▲47
特殊機能材	88	61	▲26
全社/調整	37	▲4	▲41

※主要製品群別セグメント:便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

16ページは、第2四半期累計のセグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

左側の表のとおり、基礎化学品は減収減益、機能化学品はMEPの連結化もあり、増収減益となりました。

また参考値にはなりますが、右側に主要製品群別セグメントの損益も示しております。いずれのセグメントも、営業利益・経常利益共に減益となりました。

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2022年度実績			2023年度(前回予想)*			2023年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,800	4,600	8,400	3,996	4,403	8,400
基礎化学品	2,363	2,425	4,789	2,021	2,326	4,348	2,094	2,339	4,434
機能化学品	1,618	1,471	3,090	1,827	2,327	4,154	1,941	2,130	4,072
全社/調整	▲33	▲34	▲67	▲49	▲53	▲103	▲39	▲67	▲106
営業利益	335	155	490	140	320	460	221	238	460
基礎化学品	144	43	188	67	84	151	94	100	195
機能化学品	203	122	326	95	257	353	142	159	301
全社/調整	▲13	▲11	▲24	▲22	▲22	▲44	▲16	▲20	▲36
経常利益	499	198	697	160	330	490	249	240	490
基礎化学品	208	96	305	73	97	171	74	129	203
機能化学品	253	134	387	112	260	373	178	140	318
全社/調整	37	▲32	4	▲26	▲28	▲54	▲4	▲28	▲32

* 2023年8月7日公表

17ページは、上期・下期、通期のセグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。

2023年度上期実績

売上高:

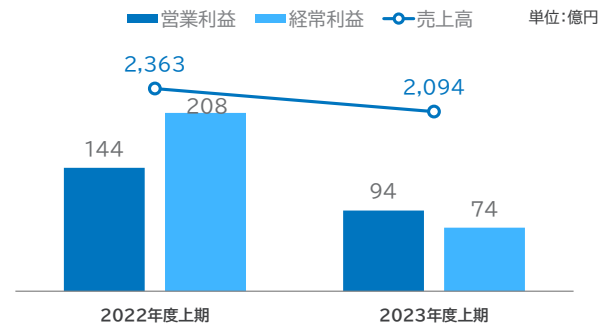
メタノール市況の下落やMXDAの販売数量減少などにより減収

営業利益:

MXDAやMMA系製品の販売数量減少などにより減益

経常利益:

メタノール市況下落等に伴う海外メタノール生産会社の持分法利益の減少や、前年度に計上した繰延税金負債の取崩しによる一過性利益の剥落などにより減益



単位: 億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	増減
売上高	2,363	2,094	▲269
天然ガス系化学品	1,194	975	▲218
芳香族化学品	1,190	1,133	▲56
調整	▲20	▲15	+4
営業利益	144	94	▲49
天然ガス系化学品	65	41	▲24
芳香族化学品	79	53	▲25
調整	0	▲0	▲0
経常利益	208	74	▲134
天然ガス系化学品	121	18	▲103
芳香族化学品	87	56	▲30
調整	▲0	▲0	▲0

		2023年度上期実績 (2022年度上期実績比)	
天然ガス系 化学品	メタノール	➡	市況が前年同期に比べ下落したことなどから減益(前期375→今期297ドル)
	メタノール・アンモニア系化学品	➡	MMA系製品を中心に販売数量が減少したことなどから減益
芳香族 化学品	ハイパフォーマンスプロダクト	➡	米欧景気減速に伴う需要低迷により、MXDAや芳香族アルデヒドの販売数量が減少し減益
	キシレン分離/誘導品	➡	高純度イソフタル酸(PIA)の市況が下落したことなどから減益
	発泡プラスチック(JSP)	➡	製品価格改定等による売上の増加や、コスト削減などから増収増益

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

18ページ、基礎化学品事業の上期実績についてご説明します。

営業利益は、主にMXDAやMMA系製品などの販売数量減少により、減益となりました。

経常利益は、メタノール市況の下落などによる海外メタノール生産会社の持分法利益が減少し、減益となりました。

主要事業別には、

メタノール・アンモニア系化学品では、主にMMA系製品の販売数量減少などにより、減益となりました。

ハイパフォーマンスプロダクトでは、MXDAや芳香族アルデヒドにおいて、欧米景気の減速に伴い需要が大きく落ち込んだことから、減益となっております。

2023年度下期予想

売上高:

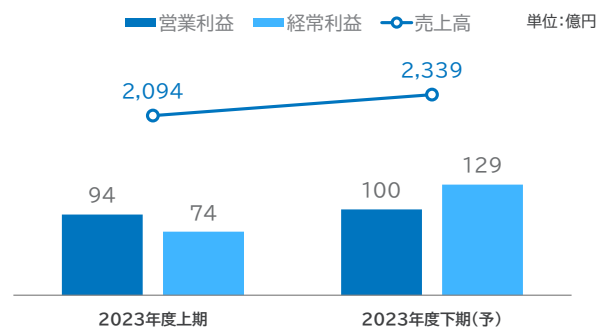
メタノール市況上昇などにより増収を予想

営業利益:

MXDAやMMA系製品等、全般に販売数量上期比で回復を見込むも、定修による修繕費増等により、損益は上期と同水準を予想

経常利益:

海外メタノール生産会社の持分法利益の増加などにより増益を予想



		2023年度下期予想 (2023年度上期実績比)	
天然ガス系 化学品	メタノール	➡	市況は上期に比べ上昇を想定し増益を予想(上期297→下期340%)
	メタノール・アンモニア系化学品	➡	販売数量の回復を見込むも、MMA系製品の定修等により、上期並みの損益を予想
芳香族化学品	ハイパフォーマンスプロダクト	➡	MXDA等の販売数量は上期比で回復を見込むも、下期定修などにより上期並みの損益を予想
	キシレン分離/誘導品	➡	高純度イソフタル酸(PIA)の市況低迷や定修により、減益を予想
	発泡プラスチック(JSP)	➡	発泡ポリプロピレンの販売好調などにより、上期並みの損益が継続する見通し

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

単位:億円	2023年度 上期実績	2023年度 下期予想	増減
売上高	2,094	2,339	+245
天然ガス系化学品	975	1,114	+138
芳香族化学品	1,133	1,249	+115
調整	▲15	▲23	▲8
営業利益	94	100	+5
天然ガス系化学品	41	45	+4
芳香族化学品	53	54	+0
調整	▲0	0	+0
経常利益	74	129	+54
天然ガス系化学品	18	73	+54
芳香族化学品	56	55	▲1
調整	▲0	0	+0

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 19

19ページは、基礎化学品事業の下期予想になります。

営業利益は、販売数量の全般的回復が増益要因となる見込みですが、下期は定修費用などの固定費の増加もあり、上期とほぼ同水準の損益を見込んでおります。

経常利益は、メタノール市況の上昇に伴い、海外メタノール生産会社の持分法利益の増加を見込み、増益を予想いたします。

主要事業別について、ハイパフォーマンスプロダクトは、MXDAや芳香族アルデヒドの欧米向け需要の緩やかな回復を見込み、対上期では販売増を想定しておりますが、水島工場定修を予定していることなどから、損益としては上期並みの水準を予想しております。

2023年度上期実績

売上高:

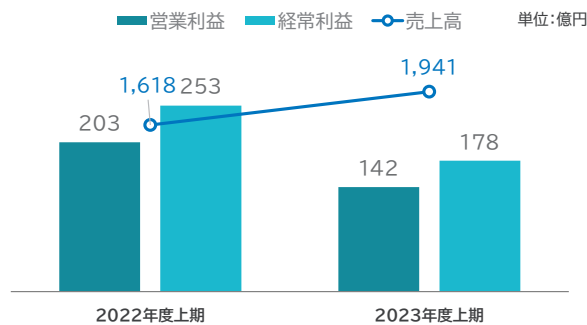
三菱エンジニアリングプラスチックス社(MEP)の連結化により増収

営業利益:

POMの市況下落、電子材料の販売数量減少、光学樹脂ポリマーの販売数量減少などにより減益

		2023年度上期実績 (2022年度上期実績比)	
機能化学品	無機化学品	➡	半導体向け薬液は需要が低迷も、原燃料価格や輸送費の上昇等の販売価格への転嫁などにより、前年同期並みの損益
	エンジニアリングプラスチックス	➡	MEP連結化で増収となるも、POM市況が下落したことなどから減益
	光学材料	➡	主用途であるスマホ需要は第2四半期から新機種が生産が立ち上がり回復傾向ではあるものの、前年同期水準には及ばず減益
特殊機能材	電子材料	➡	BT材料の需要はスマホ向け材料などで回復傾向にあるものの、前年同期の水準には及ばず減益
	脱酸素剤	➡	国内食品用途における巣ごもり需要の反動や、輸出販売の減少や原材料価格上昇等で減収減益

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載



単位: 億円	2022年度上期実績	2023年度上期実績	増減
売上高	1,618	1,941	+323
機能化学品	1,261	1,648	+387
特殊機能材	358	293	▲64
調整	▲0	▲0	+0
営業利益	203	142	▲61
機能化学品	129	88	▲40
特殊機能材	74	53	▲21
調整	0	▲0	▲0
経常利益	253	178	▲74
機能化学品	164	116	▲47
特殊機能材	88	61	▲26
調整	0	▲0	▲0

20ページ、機能化学品事業の上期実績についてご説明します。

売上高は、今期よりMEPを連結化したことにより、増収となりました。

営業利益は、ポリアセタールの市況下落や電子材料の販売数量減少などにより、減益となりました。

主要事業別ですが、

エンプラは、前年同期に好調であったポリアセタールの需要が減速し、市況も大幅に下落したため、減益となっております。

また光学材料やBT材料は、足元はスマートフォン向け材料などの需要が確実に回復しているものの、前年同期比では、減益となっております。

2023年度下期予想

売上高:

電子材料や光学材料などの販売数量の回復により増収

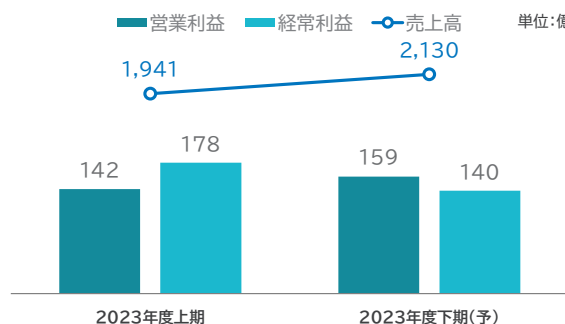
営業利益:

電子材料や光学材料などの販売数量の回復はあるものの、無機化学品(エレケミ)の成長投資に伴う固定費増や、ポリカーボネート(PC)の海外拠点における定修などにより、増益幅は小幅に留まる見込み

		2023年度下期予想 (2023年度上期実績比)	
機能化学品	無機化学品	🔴	半導体向け薬液は引き続き需要低迷が続く中で、成長投資に伴う固定費増等を織り込み、減益を予想
	エンジニアリングプラスチック	🔴	需要は上期並みの水準を見込むも、PC海外生産拠点の下期定修に伴う固定費増等より、減益を予想
	光学材料	🟡	スマホ向けの販売数量は増加を見込むも、下期定修による固定費増等により上期並みの損益を見込む
特殊機能材	電子材料	🟢	BT材料は、スマホやノートPC向け材料、汎用品向け材料ともに需要の継続的回復を見込み、増益を予想
	脱酸素剤	🟡	国内外需要共に回復を想定するも、コストの高止まり等により増益幅は小幅に留まる見込み

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

営業利益 経常利益 売上高 単位:億円



単位:億円	2023年度		増減
	上期実績	下期予想	
売上高	1,941	2,130	+188
機能化学品	1,648	1,757	+108
特殊機能材	293	374	+81
調整	▲0	▲0	▲0
営業利益	142	159	+16
機能化学品	88	61	▲27
特殊機能材	53	97	+43
調整	▲0	0	+0
経常利益	178	140	▲38
機能化学品	116	38	▲78
特殊機能材	61	101	+39
調整	▲0	0	+0

21ページは、機能化学品事業の下期予想になります。

営業利益は、電子材料や光学材料などの販売数量回復が増益要因となりますが、エレケミでは成長投資に伴う固定費増や、ポリカーボネートでは海外拠点における定修費の計上などが想定され、増益幅は小幅に留まる見込みです。

主要事業別ですが、

無機化学品は、半導体向け薬液の需要回復に、今しばらく時間を要すると想定しております。成長投資に伴う固定費増加もあり、減益の予想です。

エンプラについては、需要は上期並みの水準を見込みますが、ポリカーボネートの海外生産拠点の定修など固定費増加要因もあり、減益を予想しております。

一方でBT材料は、スマートフォンやノートPC向け材料で継続的な需要回復を見込むことや、汎用向けなどの需要も徐々に回復することを想定し、更なる増益を予想いたします。

1 | 2023年度 第2四半期 決算概要

2 | 2023年度 通期 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

4 | トピックス～次期中計に向けて～

続いてトピックスとして、次期中計に向けての取り組みをご説明申し上げます。

現中計(Grow UP 2023)の進捗状況

- スタート時に立てた戦略に沿って各種施策を実施
- 売上高は計画達成も、営業利益、経常利益、ROIC、ROEは未達となる見込み
⇒ 事業ポートフォリオの強靱化、質を重視した経営が必要

	2020年度 実績	2023年度 11月業績予想	2023年度 中計目標
売上高	5,957億円	8,400億円	7,300億円
営業利益	445億円	460億円	700億円
経常利益	502億円	490億円	800億円
ROIC*	7.7%	5.4%	10%以上
ROE	7.1%	7.7%	9%以上

* ROIC=経常利益/投下資本
三菱ガス化学株式会社

目標1 取り組み 状況	環境変化に強い収益構造への転換 ～事業ポートフォリオ改革～ <ul style="list-style-type: none"> ✓ 差異化事業を中心に積極的な投融資を実施 ✓ 研究開発費・人員を増強も、新規事業の創出は計画よりも遅れ ✓ ホルマリン・ポリオール系製品の生産停止など、不採算事業の見直し・再構築を実施
目標2 取り組み 状況	社会的価値と経済的価値の両立 ～持続可能な成長に向けて～ <ul style="list-style-type: none"> ✓ マテリアリティKPIの2023年度目標を概ね達成見込み ✓ 環境循環型メタノール、CO₂由来PCの開発に向けた取り組みが進捗 (※NEDO GI基金対象事業) ✓ 再生可能エネルギーの導入、CCUSの社会実装に向けた取り組みも進展

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 23

23ページでは、まず現中計の進捗状況をご説明いたします。

事業ポートフォリオ改革は、中計最終年度である今年度においても手を緩めることなく進めております。

差異化事業を中心に積極投資を継続している他、不採算・要再構築事業では、新潟工場のホルマリンおよび誘導品の生産を停止するなど、着実に改革を進め「環境変化に強い収益構造への転換」を推進しております。

また、10月31日には、JSPの非連結子会社化と資本業務提携の解消を公表しました。

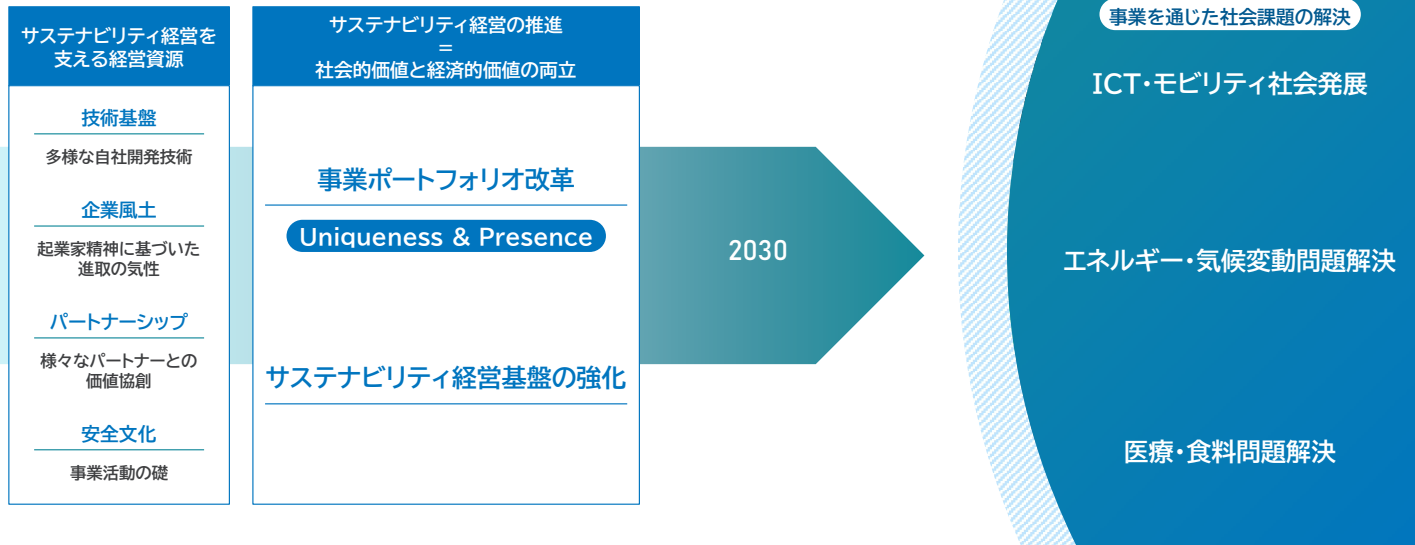
一方、現中計の利益目標・収益性指標の達成は残念ながら厳しい見通しです。

成長ドライバーである半導体関連製品の需要下振れや、世界的な経済活動の鈍化に伴う全般的な製品の販売不調などの要因はあるものの、事業ポートフォリオの更なる強靱化、質を重視した経営が、より一層必要になっていると認識しております。

次のページより、次期中計に向けて、その骨子をご説明いたします。

2030年ありたい姿

－ 独自性・存在感のある事業に磨きをかけ、事業を通じた社会課題の解決に貢献



24ページは、2030年のありたい姿を示しております。

「サステナビリティ経営を支える経営資源」をもとに「事業ポートフォリオ改革」「サステナビリティ経営基盤の強化」を推進し、独自性や存在感のある事業に磨きをかけていくことで、事業を通じた社会課題の解決に貢献して参りたいと考えております。

タイトル: Grow UP 2026 ~「伸びる」「勝てる」「サステナブル」~

中計期間:2024年度~2026年度の3年間(目標固定式)

位置付け:Grow UP 2023の後編・2030年ありたい姿の実現に向けた助走期間
現中計の目標に再チャレンジ、更なる高みを目指す

目標 **1** 事業ポートフォリオの強靱化

施策1
「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

施策2
イノベーションによる新しい価値の創造

施策3
重点管理事業の再構築

目標 **2** サステナビリティ経営の推進

施策1
カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの加速

施策2
人的資本経営の充実

施策3
マテリアリティマネジメントの推進

25ページでは、次期中計のタイトル・目標・施策についてお示しします。

タイトルは『Grow UP 2026「伸びる」「勝てる」「サステナブル」』です。

中計期間は2024年度~26年度の3年間の目標固定式とする予定です。

次期中計の位置付けは、現中計Grow UP 2023の後編であります。

「2030年ありたい姿」の実現に向けた助走期間と捉えており、現中計の目標に再チャレンジし、更なる高みを目指します。

具体的な目標には「事業ポートフォリオの強靱化」「サステナビリティ経営の推進」を掲げ、それぞれ記載の施策を推進していく予定です。

「Uniqueness & Presence」とは

- －「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、社会的価値と経済的価値を両立して持続的に成長できる事業を「Uniqueness & Presence」＝差異化事業と再定義

Uniqueness & Presence（社会的価値と経済的価値を両立した持続的成長）＝差異化事業

伸びる

1. 携わる市場に将来性があり、今後の成長が大いに期待できる
2. 新規用途・製品の創出やM&A等により、新たなマーケットの創出が期待できる

勝てる

品質・機能・サプライチェーン・技術・コスト等で他社が簡単に模倣できない競争優位性を持つ

→その結果として、

1. 高いシェアで存在感がある
2. 市場から価値を認められ、高い利益率を得ることができる

サステナブル(環境貢献)

「GHG排出量が少ない」
「気候変動対策・環境負荷低減に資する」等、社会から価値を認められる

差異化事業

電子材料、エレクトロニクスケミカルズ(無機化学品)、光学材料、メタノール、エネルギー資源・環境、POM、MXDA/芳香族アルデヒド、ポリマー材料



26ページでは、当社が注力すべき「Uniqueness & Presence」についてまとめております。

「伸びる」「勝てる」「サステナブル」の観点で優れ、経済的価値と社会的価値を両立して持続的に成長できる事業を「Uniqueness & Presence」、すなわち差異化事業と再定義しております。

事業ポートフォリオの強靱化に向けた具体策

施策1

「Uniqueness & Presence」へのフォーカス

- ✓ 「Uniqueness & Presence」= 差異化事業に対する経営資源の一層の集中と選択
- ✓ 現中計で実行した大型投資(エレケミ、BT材料、MXDA等)の成果の刈り取り
- ✓ 資本効率を意識しつつ、次期中計でも差異化事業を中心に積極的な投資を継続

施策2

イノベーションによる新しい価値の創造

- ✓ MGC戦略研究領域の設定(モビリティ、情報通信、医・食)
- ✓ 重点注力テーマを絞り込み、R&D資源を集中投入
- ✓ ライフサイエンス系テーマ・事業に対する全社的視点からの取り組み(組織体制の見直しも検討)
- ✓ 気候変動問題解決に向けたテーマの推進

施策3

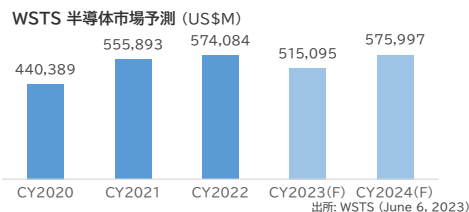
重点管理事業の再構築

- ✓ 採算が悪化している製品・子会社を「重点管理事業」と位置づけ、再構築を図る
- ✓ ROICツリーを活用し、資本効率性に基づいた管理を強化、EXITルールの厳格化

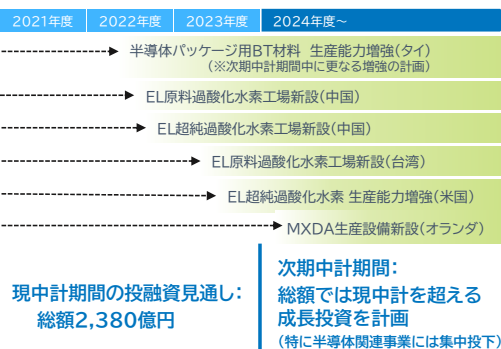
資本効率の向上に向けた取り組み

- ✓ 事業PF改革の一環として、JSPとは資本業務提携を解消し、非連結子会社化
- ✓ 政策保有株式の縮減により、資産効率の向上にも引き続き注力
- ✓ 自己株取得を含めて積極的な株主還元を継続

半導体市場の需要再拡大を見据え、
現中計および次期中計でも積極的な投資を推進



差異化事業の主要投融資案件の進捗



以上が次期中計骨子の概要になりますが、事業ポートフォリオの強靱化に関し、その具体策を27ページにお示ししております。

まずUniqueness & Presence、すなわち差異化事業へのフォーカスです。

右表の通り、当社は現中計期間から差異化事業を中心に多くの成長投資を実行しており、投融資額の見通しは現中計の計画値2,400億円の水準をほぼ達成する見込みです。次期中計期間では、これらの大型投資の成果を確実に刈り取っていくことが肝要と考えております。

また、集計中ではありますが、次期中計期間においても、総額で現中計を超える成長投資を計画しており、とりわけ、半導体関連事業への集中投下を予定しております。成長投資の手は緩めず、一方で資本効率をより意識しながら、経営資源の一層の集中と選択を図って参ります。

続いて「イノベーションによる新しい価値の創造」についてです。

当社の戦略研究領域を「モビリティ」「情報通信」「医・食」と定め、重点注力テーマを絞り込み、R&D資源を集中投入いたします。医・食領域では、ライフサイエンス系事業に全社的な視点で取り組むべく、組織体制の見直しも検討いたします。また、どの戦略研究領域にも共通する取り組みとして、気候変動問題解決に向けたテーマも推進してまいります。

続いて「重点管理事業の再構築」についてです。

採算が悪化している製品・子会社を「重点管理事業」と位置づけ、再構築を図ってまいります。ROICツリーを活用し、資本効率性に基づいた管理を強化、EXITルールの厳格化を進めバランスシートや質を重視した経営を推進して参ります。

なお「資本効率の向上に向けた取り組み」について、足元の取り組みを含め、具体策をいくつか記載しております。

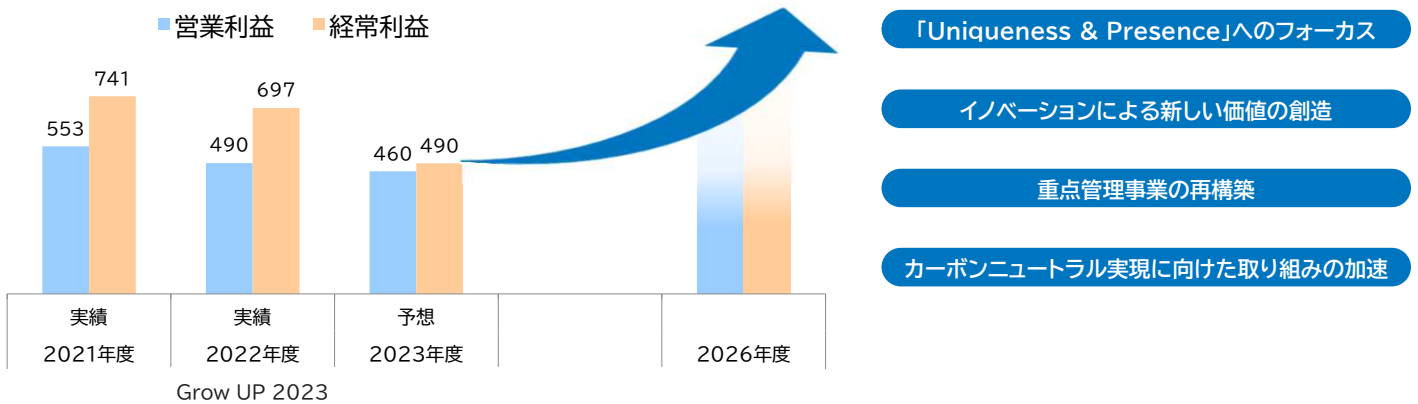
10月31日に公表の通り、当社は事業ポートフォリオ改革の一環として、JSP社との資本業務提携を解消し、非連結子会社化いたします。政策保有株式も適宜縮減を進め、資産効率の向上に引き続き注力しております。

また、11月8日に公表させて頂きましたが、自己株式取得を含め、積極的な株主還元も継続しており、資本効率の更なる改善にも注力してまいります。

持続的な利益成長を目指して

「事業ポートフォリオの強靱化」を進め、持続的な利益成長を目指す

営業利益、経常利益の推移イメージ（億円）



最後の28ページは、持続的な利益成長のイメージ図になります。

足下の営業利益、経常利益等は減少しておりますが、次期中計にかけて、今ほどご説明申し上げた「事業ポートフォリオの強靱化」を進め、持続的な利益成長を目指して参りたいと考えております。

■ 資本コストを意識した収益性の更なる向上

- 全社評価に加えて、ビジネスユニット単位でROIC等を算出し、事業毎の資本収益性等の分析・管理を引き続き徹底

■ 事業ポートフォリオ改革の加速

- 成長投資や不採算事業の挺入れ等を中心とした事業PF改革を今後も更に加速、資本収益性(ROE、ROIC)の一層の向上に注力

■ 成長投資の積極化

- 差異化事業への投資に加えて、新規・次世代事業への投資及び研究開発関連投資(人的資本投資を含む)、ESG関連投資にも注力
- 財務規律を維持しつつ、財務レバレッジの活用も

■ 株主還元方針

- 中期的な株主還元の目安である、総還元性向40%以上を今後も堅持。内部留保の水準及び株主還元の水準等を総合的に勘案の上、配当に加えて自己株式取得も機動的に実施、資本効率向上と株主還元を図る。

■ 政策保有株式

- 政策保有株式の連結純資産に占める比率は、主要な海外議決権行使助言会社※の議決権行使基準を下回る水準。(※グラス・ルイスなど)
- 今後も保有目的及び意義を毎年取締役会で個別銘柄毎に検証、適正な保有水準を超えていると判断された株式は適宜売却の方針。

■ 投資家との積極的な対話の継続、市場認知度の更なる向上

- 四半期毎の決算説明会の運用継続、開示資料の充実化(英文開示を含む)、IRイベント等の一層の拡充

現中計目標に掲げるROE及びROICの更なる向上を図るとともに、事業PF改革の加速により資本収益性の向上を目指す

Appendix

セグメント別 2022年度及び2023年度 四半期別推移



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	3,996	4,403	8,400
基礎化学品	1,171	1,192	1,293	1,132	4,789	1,019	1,074	2,094	2,339	4,434
機能化学品	788	829	772	699	3,090	872	1,069	1,941	2,130	4,072
全社/調整	▲20	▲13	▲21	▲12	▲67	▲21	▲17	▲39	▲67	▲106
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	221	238	460
基礎化学品	76	68	44	▲1	188	32	62	94	100	195
機能化学品	120	83	80	42	326	35	106	142	159	301
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲24	▲5	▲10	▲16	▲20	▲36
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	249	240	490
基礎化学品	84	124	81	15	305	20	54	74	129	203
機能化学品	145	107	81	52	387	47	131	178	140	318
全社/調整	19	18	▲25	▲7	4	2	▲6	▲4	▲28	▲32

参考:主要製品群別 2022年度及び2023年度 四半期別推移(※)



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	下期(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	3,996	4,403	8,400
天然ガス系化学品	616	577	677	600	2,471	492	483	975	1,114	2,090
芳香族化学品	565	624	626	540	2,357	535	598	1,133	1,249	2,383
機能化学品	596	664	642	585	2,489	735	913	1,648	1,757	3,405
特殊機能材	192	165	129	114	602	136	156	293	374	667
全社/調整	▲31	▲23	▲32	▲21	▲108	▲29	▲25	▲55	▲91	▲146
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	221	238	460
天然ガス系化学品	38	27	17	5	88	18	22	41	45	86
芳香族化学品	38	40	27	▲7	98	13	39	53	54	108
機能化学品	75	54	72	39	241	16	72	88	61	150
特殊機能材	45	29	8	2	84	18	34	53	97	150
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲23	▲6	▲10	▲16	▲20	▲36
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	249	240	490
天然ガス系化学品	39	81	53	26	201	5	12	18	73	91
芳香族化学品	44	42	28	▲11	103	15	41	56	55	111
機能化学品	90	73	66	50	281	24	92	116	38	155
特殊機能材	54	34	15	1	106	22	39	61	101	163
全社/調整	19	18	▲25	▲7	5	2	▲6	▲4	▲28	▲32

※主要製品群別セグメント(便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります)

参考:各種指標(1)



単位:億円	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023(予)
設備投資額 [上期]	222 [103]	305 [149]	350 [137]	309 [139]	392 [186]	423 [224]	402 [158]	547 [220]	646 [312]	1,070 [380]
減価償却費 [上期]	237 [115]	267 [131]	256 [122]	270 [131]	274 [135]	295 [144]	306 [151]	319 [158]	335 [161]	390 [183]
研究開発費 [上期]	168 [80]	189 [92]	192 [96]	189 [95]	186 [91]	196 [94]	199 [98]	210 [101]	235 [111]	275 [126]
年度末人員(人)	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	8,998	9,888	10,050	11,013
一株当たり当期純利益 (円/株) ^{*1}	192	154	222	281	257	101	173	232	239	232
ROA(総資産経常利益率) (%)	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	6.2	8.4	7.1	4.4
ROE(自己資本当期利益率) (%)	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	7.1	8.8	8.3	7.7
ROIC(投下資本利益率) ^{*2} (%)	7.2	7.3	10.4	13.2	10.9	4.9	7.7	10.4	8.8	5.4
売上高営業利益率 (%)	2.8	5.7	7.9	9.9	6.4	5.6	7.5	7.8	6.3	5.5
EBITDA ^{*3}	682	746	893	1,088	976	616	817	1,070	1,050	908
配当金(円/株) ^{*1} [うち2Q末]	28.0 [14.0]	32.0 [16.0]	38.0 [16.0]	59.0 [24.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]	80.0 [40.0]

*1 当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

*2 ROIC=経常利益/投下資本 *3 EBITDA=経常利益+減価償却費+支払利息

※記念配当10円を含む

参考:各種指標(2) セグメント別 設備投資額・減価償却費(連結)



単位:億円	2014	2015	2016	2017	2018	2019		2020	2021	2022	
設備投資額※	天然ガス系化学 品	57	53	90	60	57	72	基礎化学品	197	192	320
	芳香族化学品	40	106	105	113	146	150				
	機能化学品	76	99	81	110	144	146	機能化学品	186	326	286
	特殊機能材	43	38	66	19	23	26				
	その他	3	7	5	6	21	27	その他	18	29	39
	合計	222	305	350	309	392	423	合計	402	547	646
減価償却費	天然ガス系化学 品	69	61	50	51	55	63	基礎化学品	164	171	179
	芳香族化学品	39	82	85	85	87	95				
	機能化学品	92	88	86	91	87	87	機能化学品	130	130	137
	特殊機能材	33	30	30	35	36	38				
	その他	3	3	3	5	8	10	その他	11	17	18
	合計	237	267	256	270	274	295	合計	306	319	335

※固定資産計上ベース

参考:各種指標 (3)



	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想
為替(JPY/USD)	109	109	107	105	110	115	134	137	141	140
為替(JPY/EUR)	121	120	121	126	131	130	139	143	153	150
原油価格(Dubai) (USD/bbl.)	64	56	37	52	69	87	102	83	82	80
メタノール (USD/MT) アジアスポット平均価格	277	245	194	319	370	428	375	351	297	340
原料キシレン(USD/MT)	705	640	420	560	780	875	1,105	925	958	910
ビスフェノールA (USD/MT)*	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,400 ~3,300	2,750 ~3,700	2,100 ~3,150	1,450 ~2,200	1,250 ~1,700	1,150 ~1,400	1,200 ~1,400
ポリカーボネート (USD/MT)*	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	2,100 ~4,000	3,100 ~4,050	2,650 ~3,650	1,950 ~2,900	1,800 ~2,200	1,650 ~1,900	1,700 ~1,900

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)

為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益2億円/年、経常利益2億円/年の減益(増益)

原油(Dubai) : 1ドル/bbl.の上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

メタノール : メタノール市況1ドル/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考:主要製品群(旧セグメント)別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2022年度実績			2023年度前回予想*			2023年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,800	4,600	8,400	3,996	4,403	8,400
天然ガス系化学品	1,194	1,277	2,471	933	1,103	2,036	975	1,114	2,090
芳香族化学品	1,190	1,167	2,357	1,108	1,243	2,352	1,133	1,249	2,383
機能化学品	1,261	1,228	2,489	1,547	1,933	3,480	1,648	1,757	3,405
特殊機能材	358	244	602	280	394	675	293	374	667
全社/調整	▲54	▲53	▲108	▲69	▲74	▲144	▲55	▲91	▲146
営業利益	335	155	490	140	320	460	221	238	460
天然ガス系化学品	65	23	88	25	30	56	41	45	86
芳香族化学品	79	19	98	41	53	94	53	54	108
機能化学品	129	111	241	43	152	196	88	61	150
特殊機能材	74	10	84	51	105	157	53	97	150
全社/調整	▲13	▲10	▲23	▲22	▲21	▲44	▲16	▲20	▲36
経常利益	499	198	697	160	330	490	249	240	490
天然ガス系化学品	121	79	201	27	51	78	18	73	91
芳香族化学品	87	16	103	46	46	92	56	55	111
機能化学品	164	117	281	51	152	204	116	38	155
特殊機能材	88	17	106	61	107	168	61	101	163
全社/調整	37	▲32	▲5	▲26	▲28	▲54	▲4	▲28	▲32

注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2023年8月7日公表

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	<ul style="list-style-type: none"> ・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

